

令和8年4月1日 知的システム工学科

本学科では、国際的な技術者教育の標準（JABEE 認定基準）に基づき、教育の質保証ならびに教育の品質のさらなる向上に取り組んでいます。

これまで本学科の教育プログラムでは、一つの学習目標の中に複数の知識・能力の要素が含まれる構造となっていました。しかし、この構成では「どの目標を達成すれば、どのような能力が身についたと言えるのか」という対応関係が、外部から見て明確でない面がありました。

そこで2026年度4月より、JABEE の認定基準に基づき、皆さんが修得する「知識・能力」と「学習・教育到達目標」が1対1で対応するよう整理し、教育の成果をより明確に証明できる体系へと改善いたしました。

### **2025年度までに入学された在学生の皆様への影響について**

この「学習・教育到達目標」は、各科目が本来提供していた教育内容をより分かりやすく整理し直したものであって、授業内容や卒業要件、各科目が本質的に担っていた「学習・教育到達目標」や「知識・能力」の内容・水準、皆さんが取り組んでいる学びの本質的な内容に変更はありません。

**整理前：**

各学習・教育到達目標〔(A)、(B)、(C)---〕が基準 1.2 の知識・能力観点〔(a)～(i)〕を主体的に含んでいる場合には◎印を、付随的に含んでいる場合には○印で表示

知識・能力観点 学習・教育 到達目標	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)
(A) 教養, 社会性・ 国際性	◎								
(B) 社会的責任, 倫理		◎							
(C) 理系基礎学力			◎						
(D) 専門的知識を習得			◎						
(E) 実践的な応用能力				◎	◎				
(F) コミュニケーション 能力						◎	◎		
(G) チームで仕事をする 能力								◎	◎

**学習・教育到達目標**

(A) 複合的なエンジニアリング活動に携わる情報工学技術者として、文化、社会、自然を考慮しながら、広い視野と深い教養に基づき、多面的に物事を考え、判断する能力、外国語によるコミュニケーション能力を育成する。

(教養, 社会性・国際性)

(B) 産業・情報技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、情報工学技術者が負う社会的責任を十分に理解し、技術者倫理に則って判断する能力を育成する。(社会的責任, 倫理)

(C) 情報工学技術者が備えるべき数学、自然科学に関する基礎学力を獲得する。(理系基礎学力)

(D) 知的システムを創成する情報工学技術者が備えるべき情報技術に関する専門的知識を習得する。(専門的知識を習得)

(E) 知的システムを創成する高度なエンジニアリング活動において必要となる専門的知識を習得・深化させ、実践的な応用能力を習得する。(実践的な応用能力)

(F) 自主的に学習する能力を身に付けるとともに、論理的な記述力・口述力・対話力などのコミュニケーション能力を育成する。(コミュニケーション能力)

(G) 複合的なエンジニアリング活動において、解決すべき問題を探求・認識・整理する能力、制約条件のもとで、問題を解決するための計画を立案、遂行、達成する能力およびチームで仕事をする能力を育成する。(チームで仕事をする能力)

**整理後：**

各学習・教育到達目標〔(A)、(B)、(C)---〕が基準 1.2 の知識・能力観点〔(a)~(i)〕を主体的に含んでいる場合には◎印を、付随的に含んでいる場合には○印で表示

知識・能力観点 学習・教育 到達目標	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)
(A) 教養, 社会性・国際性	◎								
(B) 社会的責任, 倫理		◎							
(C) 理系基礎学力			◎						
(D) 実践的な応用能力				◎					
(E) デザイン能力					◎				
(F) コミュニケーション能力						◎			
(G) 自主的に学習する能力							◎		
(H) 与えられた制約の下で仕事を進める能力								◎	
(I) チームで仕事をする能力									◎

**学習・教育到達目標**

(A) 複合的なエンジニアリング活動に携わる情報工学技術者として、文化、社会、自然を考慮しながら、広い視野と深い教養に基づき、多面的に物事を考え、判断する能力、外国語によるコミュニケーション能力を育成する。

(教養, 社会性・国際性)

(B) 産業・情報技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、情報工学技術者が負う社会的責任を十分に理解し、技術者倫理に則って判断する能力を育成する。(社会的責任, 倫理)

(C) 情報工学技術者が備えるべき数学、自然科学に関する基礎学力を獲得する。(理系基礎学力)

(D) 知的システムを創成する情報工学技術者が備えるべき情報技術に関する専門的知識を習得する。(専門的知識を習得)

(E) 知的システム分野における種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力を取得する。(デザイン能力)

(F) 論理的な記述力・口述力・対話力などのコミュニケーション能力を育成する。

(G) 自主的に学習する能力を育成する。

(H) 複合的なエンジニアリング活動において、解決すべき問題を探求・認識・整理する能力、制約条件のもとで、問題を解決するための計画を立案、遂行、達成する能力を育成する。

(I) チームで仕事をする能力を育成する。

#### 新旧の対応関係：

旧 A)⇒新 A) に対応（変更なし）

旧 B)⇒新 B) に対応（変更なし）

旧 C)⇒新 C) に対応(観点を統合し明確化, 旧 C),旧 D)ともに(c)の知識・能力を担っている)

旧 D)⇒新 C) に対応(観点を統合し明確化, 旧 C),旧 D)ともに(c)の知識・能力を担っている)

旧 E)のうち, (d)の知識・能力を担っていた科目⇒新 D) に対応(1対1に細分化)

旧 E)のうち, (e)の知識・能力を担っていた科目⇒新 E) に対応(1対1に細分化)

旧 F)のうち, (f)の知識・能力を担っていた科目⇒新 F) に対応(1対1に細分化)

旧 F)のうち, (g)の知識・能力を担っていた科目⇒新 G) に対応(1対1に細分化)

旧 G)のうち, (h)の知識・能力を担っていた科目⇒新 H) に対応(1対1に細分化)

旧 G)のうち, (i)の知識・能力を担っていた科目⇒新 I) に対応(1対1に細分化)